

③ 養護教諭専門教科問題の解答について（注意）

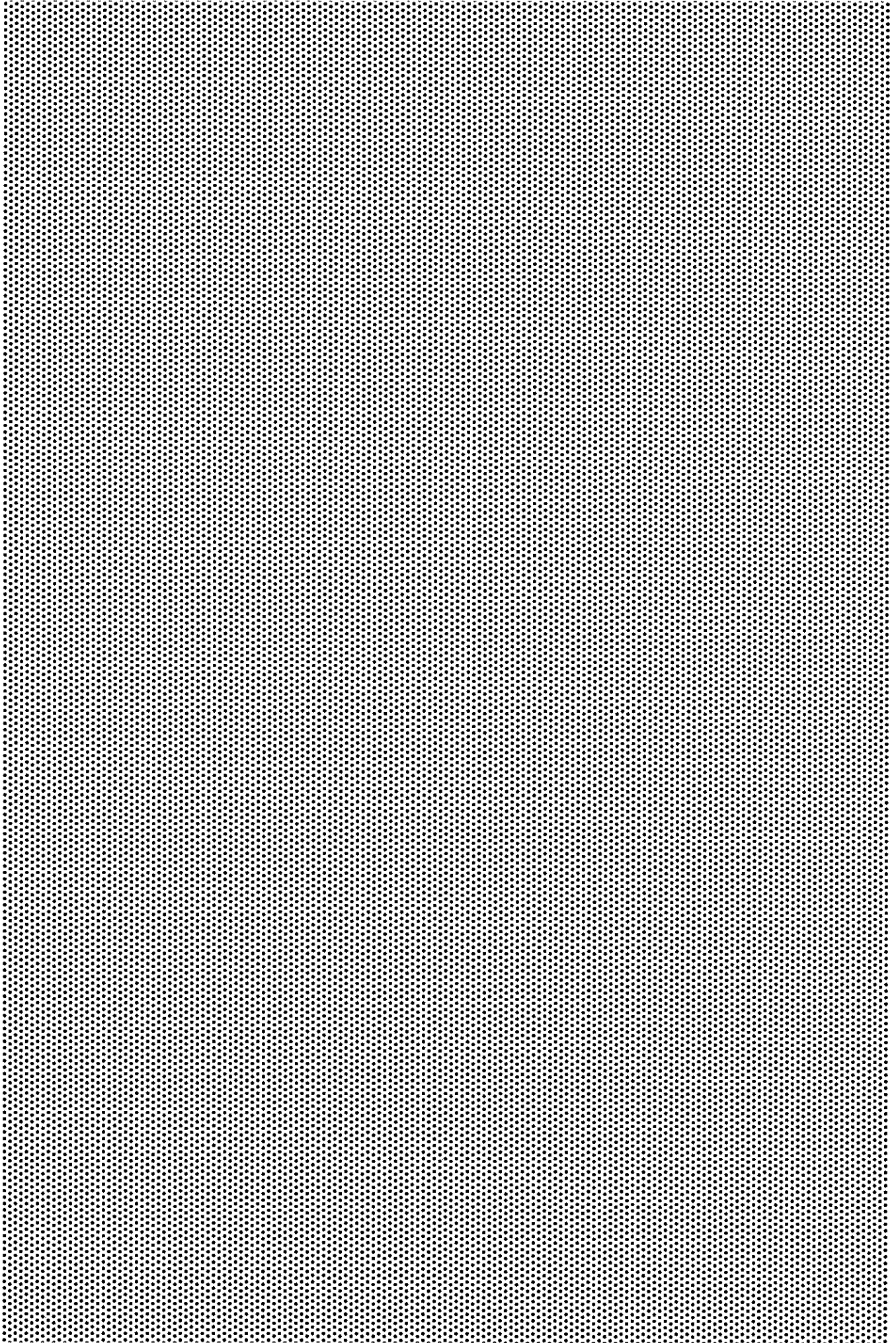
1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 フリガナ、名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「養護教諭」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
 - ア. 小問の解答番号は1から40までの通し番号になっており、例えば、25番を 25 のように表示してある。
 - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
 - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
 - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

（マークシート記入例）

フリガナ	コウベ タロウ				教科名	養護教諭
名前	神戸 太郎					

数字で記入……

受験番号					小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
						1 - 25		26 - 50		51
1	2	3	4	0	1	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	26	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	51	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	2	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	27	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	52	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	3	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	28	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	53	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	4	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	29	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	54	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	5	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	30	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	55	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	6	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	31	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	56	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	7	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	32	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	57	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	8	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	33	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	58	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	34	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	59	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	10	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	35	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	60	0 1 2 3 4
0	0	0	0	0	11	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	36	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	61	0 1 2 3 4



【1】 次の文は、小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）「第9節 体育 第2 各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕 G 保健（1）健康な生活」についての記述である。文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 健康な生活について理解すること。

（ア） 心や体の調子がよいなどの健康の状態は、①主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること。

（イ） 毎日を健康に過ごすには、②運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、③体の清潔を保つことなどが必要であること。

（ウ） 毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、④換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。

イ 健康な生活について課題を見付け、その解決に向けて考え、それを⑤行動すること。

1

【2】 次の文は、中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）「第7節 保健体育〔保健分野〕 2 内容（2）心身の機能の発達と心の健康」に関する内容とそれに該当する「3 内容の取扱い」についての記述である。文中の（a）と（b）にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

（ア） 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。

（ア）については、（ a ），循環器を中心に取り扱うものとする。

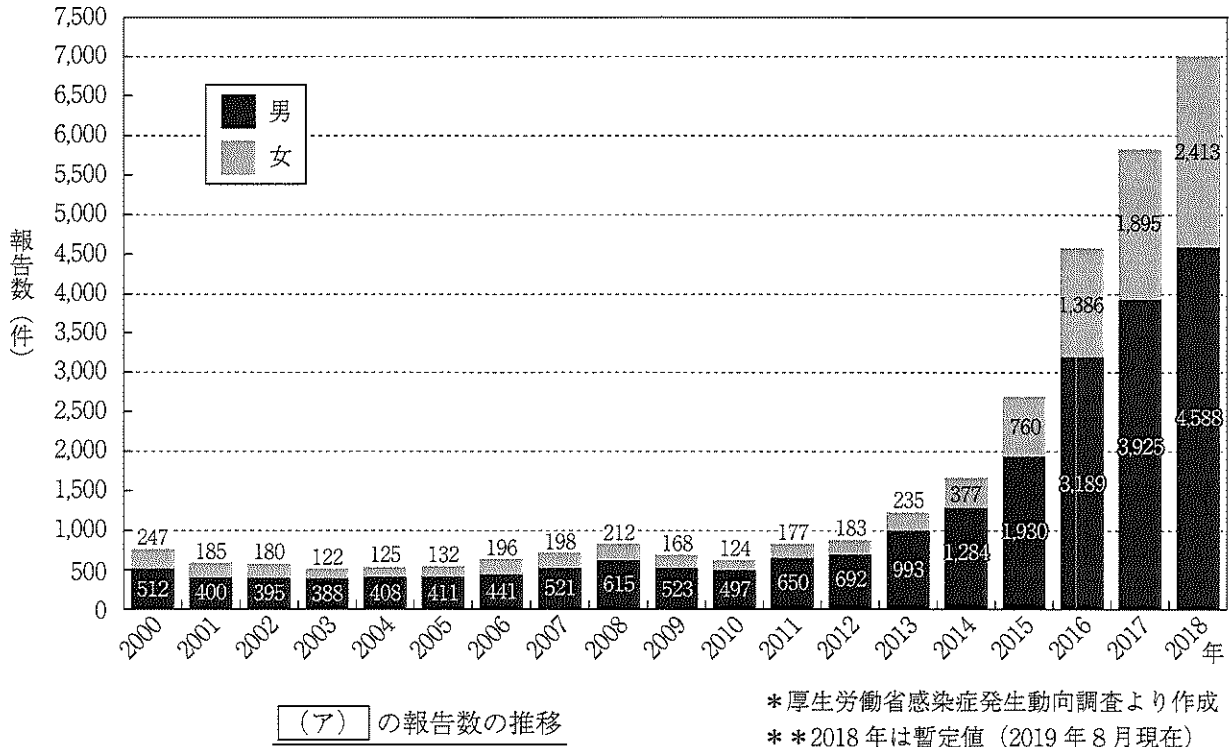
（イ） 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

（イ）については、妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、（ b ）は取り扱わないものとする。また、身体の機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。

① 消化器 ② 呼吸器 ③ 出産 ④ 妊娠の経過 ⑤ 生殖器

(a)	(b)
2	3

【3】 次の図は、ある性感染症の報告数の推移である。次の図の (ア) にあてはまる適切なものを、①～⑥から選び、番号で答えよ。



- ① 性器ヘルペスウイルス感染症 ② 性器クラミジア感染症 ③ 淋菌感染症
- ④ 梅毒 ⑤ 尖圭コンジローマ ⑥ HIV感染症

4

【4】 次の文は、学校保健に関する法規・法令についての記述である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

（1）学校保健安全法 第7条

学校には、健康診断、健康相談、（ア）、救急処置その他の保健に関する措置を行うため、保健室を設けるものとする。

- ① 健康教育 ② 保健教育 ③ 衛生指導 ④ 健康指導 ⑤ 保健指導

5

（2）学校保健安全法施行令 第8条

法第二十四条の政令で定める疾病は、次に掲げるものとする。

- 一 トラコーマ及び結膜炎
- 二 白癬、疥癬及び（イ）
- 三 中耳炎
- 四 慢性副鼻腔炎及びアデノイド
- 五 齲齒
- 六 寄生虫病（虫卵保有を含む。）

- ① 蕁麻疹 ② 膿痂疹 ③ 水疱瘡 ④ アレルギー性皮膚炎 ⑤ 麻疹

6

（3）学校保健安全法施行規則 第5条2

第一項の健康診断における結核の有無の結果において結核発病のおそれがあると診断された者（略）については、おおむね（ウ）の後に再度結核の有無の検査を行うものとする。

- ① 一か月 ② 三か月 ③ 六か月 ④ 九か月 ⑤ 一年

7

【5】 次の問いに答えよ。

(1) 水道水を水源とする飲料水（専用水道を除く）の水質に係る学校環境衛生基準を達成している水質を①～⑤から選び、番号で答えよ。

水質	一般細菌（1mLの検水で形成される集落数）	塩化物イオン	有機物（全有機炭素（TOC）の量）	pH値	色度
①	130	300mg/L	5.8mg/L	12.1	6度
②	600	80mg/L	0.5mg/L	5.8	1度
③	100	400mg/L	3.6mg/L	8.2	4度
④	80	100mg/L	2.8mg/L	1.0	5度
⑤	20	15mg/L	1.0mg/L	6.7	2度

8

(2) 次の文は、水道水を水源とする飲料水（専用水道を除く）の水質に係る学校環境衛生基準のうち、ある検査項目に関する基準についての記述である。（ア）と（イ）にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

給水における水が、（ア）を0.1mg/L以上保持するように塩素消毒すること。ただし、供給する水が病原生物に著しく汚染されるおそれがある場合または病原生物に汚染されたことを疑わせるような生物若しくは物質を多量に含むおそれがある場合の給水栓における水の（ア）は、（イ）とする。

- ① 遊離残留塩素 ② 0.4mg/L以上 ③ 0.2mg/L以上 ④ 1.5mg/L以上
 ⑤ 結合残留塩素

（ア）	（イ）
9	10

【6】 次の文は、女性ホルモンのはたらきについての記述である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを①～⑥から選び、番号で答えよ。

女性ホルモンは（ア）と（イ）の2種類で、（ウ）から分泌される。（ア）は子宮の発育や乳腺の発達などを促す。（イ）は子宮内膜の状態を調整する。

- ① プロゲステロン ② テストステロン ③ エストロゲン ④ 子宮
 ⑤ 卵巣 ⑥ 卵管

（ア）	（イ）	（ウ）
11	12	13

【7】 次の学校検尿で発見される疾病等についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 体位性蛋白尿は、安静に横になっていると蛋白尿が出現するが、上体を起こしたり立っていたりすると蛋白尿が出現しない。
- ② 無症候性蛋白尿は、蛋白尿のみが見られるが、浮腫やそのほかの臨床症状が見られない状態である。
- ③ 蛋白尿・血尿群は、蛋白尿と血尿が同時に認められる病態で、腎炎、その中でも特に慢性腎炎の可能性が高い病態である。
- ④ 慢性腎炎症候群（慢性腎炎）は、血尿、蛋白尿、円柱が半年以上持続する腎炎のことである。
- ⑤ 白血球反応陽性あるいは尿沈査の白血球の増加（白血球尿）がある場合、尿路感染症と診断されることがある。

14

【8】 次の学校における健康診断時に注意すべき疾病及び異常についての記述のうち、適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 脊柱側弯症は、脊柱が何らかの原因により側方、かつ捻れを伴い湾曲した病態である。その中には捻れを伴わず、姿勢性、疼痛性、ヒステリー性、脚長差によるものなどの機能性側弯症は含まれない。
- ② ペルテス病は、膝蓋骨に栄養を送る血管の流れが何らかの原因によって悪くなり、膝蓋骨が一時的に壊死を起こす疾患である。膝蓋骨の下方に痛みと腫脹がみられる。
- ③ 両眼開放下で、一眼が鼻側へ偏位している眼位異常は、内斜視という。一眼が耳側へ偏位している眼位異常を外斜視という。外斜視より内斜視が多い。
- ④ 慢性中耳炎は、鼓膜に穿孔がなく、中耳腔に貯留液があり難聴の原因となるが、耳痛や発熱のない中耳炎である。
- ⑤ QT延長症候群は、心電図上QT時間が長く、突然、特有の心室頻拍や心室細動を来し、失神や突然死したりする可能性のある疾患である。運動や水泳が心室頻拍の誘因となるタイプが多い。

15

【9】 次の文は、人間の身体の構造についての記述である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

(1) 骨格筋細胞

（ア）筋は、収縮が速く収縮時間の短い疲労しやすい筋（速筋）で、敏捷な動きを必要とする体肢の骨格筋に多い。（イ）筋は、収縮速度が遅く収縮時間の長い疲労しにくい筋（遅筋）で、姿勢を保持するなど長時間の緊張を必要とする骨格筋に多い。

- ① 赤 ② 横紋 ③ 平滑 ④ 白 ⑤ 黒

(ア)	(イ)
16	17

(2) 心臓

左心房と左心室の間には（ウ）があり、その開閉によって血液は一定方向に流れる。

- ① 三尖弁 ② 僧帽弁 ③ 肺動脈弁 ④ 半月弁 ⑤ 大動脈弁

(ウ)
18

【10】 次の文は、「学校保健安全法施行規則の一部改正等について（通知）」（平成26年4月30日 文部科学省）の抜粋である。文中の（ア）～（エ）にあてはまるものとして適切な組合せを①～⑤から選び、番号を答えよ。

改正の概要

1 児童生徒等の健康診断

（2）保健調査（第11条関係）

学校医・学校歯科医がより効果的に健康診断を行うため、保健調査の実施時期を、（ア）時及び必要と認めるときから、小学校、中学校、高等学校及び高等専門学校においては（イ）（略）において、幼稚園及び大学においては必要と認めるときとすること。

改正に係る留意事項

1 （ウ）等の活用による発育の評価について

座高の検査を必須項目から削除したことに伴い、児童生徒等の発育を評価する上で、（ウ）等を積極的に活用することが重要となる。

2 （エ）卵の有無の検査の必須項目からの削除に伴う留意事項について

（エ）卵検査の検出率には地域性があり、一定数の陽性者が存在する地域もあるため、それらの地域においては、今後も検査の実施や衛生教育の徹底などを通して、引き続き（エ）への対応に取り組む必要があること。

- | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---|-----|---|------------|---|-----|
| ① | ア | 就学時健康診断 | イ | 隔学年 | ウ | 身長曲線・体重曲線 | エ | しらみ |
| ② | ア | 小学校入学 | イ | 全学年 | ウ | 身長曲線・体重曲線 | エ | 寄生虫 |
| ③ | ア | 就学時健康診断 | イ | 隔学年 | ウ | ローレル指数・BMI | エ | 寄生虫 |
| ④ | ア | 小学校入学 | イ | 全学年 | ウ | ローレル指数・BMI | エ | しらみ |
| ⑤ | ア | 就学時健康診断 | イ | 全学年 | ウ | 身長曲線・体重曲線 | エ | 寄生虫 |

【11】 次の学校における定期健康診断の留意点についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 健康診断実施計画案は、学校評価、学校保健活動の評価、健康診断に関する評価等から情報を収集し、保健主事や養護教諭が中心となり作成する。
- ② 児童生徒等への事前指導については、健康診断が教育的な側面があることを考慮し、健康教育の一環として健康診断の目的や検査の受け方等を含めた事前指導を行うことが大切である。
- ③ 保護者への事前対応については、健康診断の目的や検査項目と実施学年、保健調査票等の記入の仕方、検査を受けられなかった場合の対応等について、保健だよりや学年通信等で知らせる。
- ④ 事後措置は、健康診断の結果、心身に疾病や異常が認められた児童生徒等に対してのみ行うものである。
- ⑤ 保健調査票や日常の健康観察、アンケート等で得た情報は、検査を効率よく進めるため、学校医や学校歯科医の補助資料となるようにまとめる。

20

【12】 次の文は、学校における聴力検査についての記述である。適切でないものの組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア 学校における検査では選別用オーディオメータが用いられる。
- イ 選別聴力検査は聞こえのよい耳から始めるが、どちらがよく聞こえるか分からないときは、左耳から始める。
- ウ はじめに、2,000Hz30dBの音を聞かせ、聞こえるかどうか応答させる。
- エ 明確な応答が得られたら、4,000Hz25dBの音を聞かせ、応答を確かめる。
- オ 応答がなければ難聴の疑いとし、検査の結果を健康診断票の聴力の欄にチェックを入れる。

- ① ア、オ
- ② ア、イ
- ③ イ、ウ
- ④ ウ、エ
- ⑤ エ、オ

21

【13】 次の文は、学校感染症にかかわる関係法令の改正等についての記述である。文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

結核患者に確実に抗結核薬を服用させることにより、結核のまん延を防止するとともに、①多剤耐性結核の発生を予防することは重要である。このため、保健所は患者本人にとって最も適切かつ確実な方法で②服薬状況を確認する。保健所長は服薬支援者に対して、③DOTS（直接服薬確認療法）の実施を依頼することができる。

平成27年から、④DOTS（直接服薬確認療法）実施の依頼先として学校が対象となった。このため、学校に通学している患者については、⑤主治医の依頼に基づいて養護教諭等が⑥学校の作成した個別患者支援計画に基づく方法で服薬を見守り、保健所がその状況を確認する。

22

23

【14】 次の学校感染症についての記述のうち、適切なものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 水痘は、紅斑、丘疹、水疱、膿疱、かさぶたの順に進行する発しんが出現し、同時に、各病期の発しんが混在する感染性の強い感染症である。
- ② 流行性耳下腺炎で注意すべき合併症の一つに難聴がある。思春期以降では膀胱炎の合併が多い。
- ③ 溶連菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌が原因となる感染症である。扁桃炎など上気道感染症、皮膚感染症、猩紅熱しょうこうねつなどが主な疾患である。
- ④ マイコプラズマ感染症は、咳を主症状とし、学童期以降の細菌性肺炎としては最も多い。秋から冬にかけて多くみられる。
- ⑤ 手足口病は、口腔粘膜と四肢末端に水疱性発しんが生じる疾患である。発しんが発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで、出席停止とする。

24

25

【15】 次の文は、救急処置についての記述である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

（1）胸骨圧迫

傷病者の胸と腹部が動いていなければ、呼吸が止まっていると判断し、胸骨圧迫を行う。胸が約5cm沈み込むように強く、速く圧迫を繰り返す。圧迫のテンポは1分間に（ア）回で、可能な限り中断せず、絶え間なく行う。

- ① 40～60 ② 60～80 ③ 80～100 ④ 100～120 ⑤ 120～140

（ア）
26

（2）やけど

やけどへの対応は、速やかに（イ）で、痛みが和らぐまで（ウ）冷やす。水疱（水ぶくれ）は、傷口を保護する効果をもっている。水疱ができている場合は、つぶれないようにそっと冷却し、触らないように保護する。

- ① 氷水 ② 水道の流水 ③ 氷 ④ 2～3分 ⑤ 10分以上

（イ）	（ウ）
27	28

（3）胸部打撲

胸部打撲で多いのは、呼吸または循環の障害と、骨折、ショックである。脈が弱い、呼吸困難、ぐったりしている、顔色が悪い（蒼白）、激しい痛み、（エ）の1つでも認められるならば、速やかに医療機関へ収容する。

- ① 血痰 ② 血尿 ③ 吐血 ④ 発熱 ⑤ 下血

（エ）
29

【16】 次のアナフィラキシーに備えた処方薬についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① アナフィラキシー症状は、時に、一度治まった症状が数時間後に再び出現する2相性反応を示す。2相目の反応を抑える効果を期待し、ステロイド薬が処方されることがある。
- ② エピペン[®]は、主に心臓の働きを強めたり、末梢の血管を収縮させたりして血圧を上げるノルアドレナリンを注射の形で投与できるようにした自己注射薬である。
- ③ エピペン[®]を投与するタイミングは、アナフィラキシーショック症状が進行する前の初期症状（呼吸困難などの呼吸器の症状が出現したとき）のうちに注射するのが効果的であるとされている。
- ④ エピペン[®]は、10℃以下の冷所で保管するのが好ましい。
- ⑤ アナフィラキシー症状は、ヒスタミンという物質などによって引き起こされるため、抗ヒスタミン薬が処方されることがある。

30

31

【17】 次の心身の発達の段階等からみた子どもの歯・口の健康づくりの課題についての記述のうち、小学生中学年の子どもの状況や課題等にあてはまる適切なものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 第一大臼歯や中切歯の生える時期であり、児童が自らの体の変化や成長に初めて気付く極めて重要な時期である。
- ② 犬歯や小臼歯の交換時期に当たる。上顎の前歯部における歯と歯の隣接面や第一大臼歯のむし歯の発生に注意が必要である。
- ③ 口腔内に対する気づきが希薄化する時期であり、歯肉炎も発生しやすくなる。
- ④ 歯列不正や不正咬合の出現について理解し、支援することが大切である。
- ⑤ 乳歯から永久歯への交換が終了したり、第二大臼歯が生えたりする時期である。

32

33

【18】 次の保健室経営計画についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号を答えよ。

- ① 保健室経営目標を立てる際には、学校保健目標等との整合性を図り、児童生徒の主な健康課題の中で、より緊急度やニーズの高い課題を優先する。
- ② 保健室経営の目標達成のために、養護教諭の職務（役割）や保健室の機能を十分考慮し、その年度、重点的に取り組む具体的な方策・手立てを記載する。
- ③ 保健室経営計画を教職員や保護者等に周知をすることによって、理解（養護教諭の職務や役割等）や協力が得られ、効果的な連携ができる。
- ④ 保健室経営の評価は、養護教諭の自己評価とする。
- ⑤ 保健室経営の目標に対する達成状況について「結果・成果評価」及び「経過評価」を行う。

34

【19】 次の表は、令和元年度学校保健統計調査結果のうち、総括表の一部を示したものである。表中の（ア）にあてはまる適切なものを①～⑥から選び、番号で答えよ。

(%)

区分	(ア)	眼の疾病・異常	耳疾患	鼻・副鼻腔疾患	むし歯(う歯)	
小学校	平成29年度	32.46	5.68	6.24	12.84	47.06
	平成30年度	34.10	5.70	6.47	13.04	45.30
	令和元年度	34.57	5.60	6.32	11.81	44.82
中学校	平成29年度	56.33	5.66	4.48	11.27	37.32
	平成30年度	56.04	4.87	4.72	10.99	35.41
	令和元年度	57.47	5.38	4.71	12.10	34.00

(表中の表記については、一部変更箇所あり)

- ① ぜん息
- ② 裸眼視力1.0未満の者
- ③ 矯正視力の者
- ④ せき柱・胸郭・四肢の状態
- ⑤ アレルギー疾患
- ⑥ 心電図異常

(ア)
35

【20】 下の事例に関する症状及び対応として、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

高校1年生女子。高校入学以来、遅刻や欠席はないが、休み時間や授業中を問わず緊張が高く、小声で話し、手や唇が震えることに学級担任は気付いた。学級担任が出身中学へ問い合わせを行ったところ、中学2年生の時、放課後に男子生徒がいたずらで背後から飛び蹴りをし、それがもとで数週間松葉杖を使って歩かないといけない状態となり、整形外科の治療を受けたとのことであった。

学級担任はこれらの情報を養護教諭に伝え相談した。養護教諭は、時間をとって生徒の話聞いた。その結果、中学2年の事件の時、驚愕のあまりしばらく呆然となり、その後、腰に激痛が生じて歩けなかったことや、学校の中を歩くのが怖く、すべての男子生徒が怖くなったこと、中学3年の1学期より手や唇が震えるようになったこと、夜中によく目覚めたり、物音ですぐにドキッとすることになったりしたことなどを打ち明けた。

養護教諭から報告を受けた学級担任が、保護者に連絡したところ、中学3年のころより人前で緊張が強くなり、食欲もあまりなく、学校を休んだりするようになったので、心配して心療内科を受診したが、様子を見るように言われた。その後、特に治療は受けていないと述べた。

- ① 本ケースのように、突発的あるいは予想外の被害を受けた際、著しい驚愕や恐怖を体験し、それがトラウマとなってほぼ外傷後ストレス障害（PTSD）に近い症状が現れることがある。
- ② 外傷後ストレス障害（PTSD）の症状は、断続的な再体験症状、体験を連想させるものからの回避症状、感情や緊張が高まる覚せい亢進症状である。
- ③ 中学校3年生の時に受診した心療内科医から様子を見るように言われたという経緯を踏まえ、専門医の受診を勧めず、学校と家庭で連携して健康観察を続ける。
- ④ 生徒、保護者等が相談しやすい環境を整え、健康相談の実施について周知を図る。
- ⑤ 相談者のプライバシーが守られるように、相談場所は十分配慮する。

【21】 下の事例を読んで、次の問いに答えよ。

中学校1年生男子。1時間目の休み時間に「頭が痛いので休ませてほしい」と保健室に来室した。
外傷について聞いたところ、それについては否定した。
検温→37.8℃

(1) 発熱して頭痛を訴える場合、髄膜炎の可能性があり、髄膜刺激症状の確認が必要である。髄膜刺激症状について、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 仰臥位で頭部を前屈させると明らかな抵抗や疼痛がある場合、項部硬直「陽性」と判定する。
- ② 仰臥位で頭部を前屈させると、股関節・膝関節が自動的に屈曲して両足が胸の方に引っ張られる状態を、ケルニツヒ徴候という。
- ③ 片側の股関節と膝関節を90°に屈曲してもらい、その後徐々に膝関節を伸展させ膝関節を135°以上に伸展できない場合は、ブルジンスキー徴候「陽性」と判定する。
- ④ 頭部を自分で1～2秒間に2～3回旋の頻度で左右に振ってもらい、頭痛の増悪を感じた場合、ジョルトサイン（揺すぶり増強試験）「陽性」と判定する。
- ⑤ 悪心・嘔吐、不穏状態、羞明、音過敏、けいれんなどがみられる。

38

39

(2) 同生徒は、昨日も「眼が疲れた」と言って保健室に来室した。「寝不足のせいだから少し休ませて欲しい」と言うので、タオルで冷やしながら1時間ベッドで休ませたところ、よくなったと言って教室に戻っていった。本日、問診、検査をした結果、さらに次の情報を得られた。最も疑いのある症状はどれか。①～⑤から選び、番号で答えよ。

10日くらい前、のどが痛くなって熱と鼻水が出た。病院でもらった薬を1週間飲んだら、熱も下がったし、のどもよくなったけど、3日前くらいからまた鼻水が出るようになった。鼻がつまった感じでよく眠れない。昨日は眼の奥が痛くなったので、寝不足かもしれないと思って保健室に来た。今日は眼の奥だけでなく頭のとっぺんから顔にかけて重く痛い。鼻水は黄緑色でねばねば。くさい匂いがして気持ち悪い。

左前顎洞の圧痛 (+)、咽頭痛や発赤 (-)、咳嗽 (-)、リンパ節の腫脹 (-)、
仰臥位と立位とで頭痛の程度に変化はない。

- ① 硬膜下血腫
- ② 中耳炎
- ③ 眼精疲労
- ④ 慢性副鼻腔炎
- ⑤ 急性副鼻腔炎

40